

あけのほし 2014 年 12 月

## 「クリスマスの平和」

菊 田 行 佳

「そのころ、皇帝アウグストゥスから全領土の住民に、登録をせよとの勅令が出た。これは、キリニウスがシリア州の総督であったときに行われた最初の住民登録である。人々は皆、登録するためにおのおの自分の町へ旅立った。ヨセフもダビデの家に属し、その血筋であったので、ガリラヤの町ナザレから、ユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上って行った。身ごもっていた、いいなずけの MARIA と一緒に登録するためである。ところが、彼らがベツレヘムにいるうちに、MARIA は月が満ちて、初めての子を産み、布にくるんで飼葉桶に寝かせた。宿屋には彼らの泊まる場所がなかったからである。」

(ルカによる福音書 2 章 1 - 7 節)

クリスマスおめでとうございます。今回は、イエス・キリストの誕生の意味を、考えて参りたいと思います。そして特に、イエスさまがもたらした、地上における、平和と言うことについて、思いをめぐらして行きたいと思います。

イエスさまが誕生したときというのは、ローマ帝国の皇帝アウグストゥスが統治していた時代でした。この皇帝は、ライバルたちとの争いに勝ってローマで初めて皇帝になり、大帝国を築き上げた人物であります。世界のほとんどを征服することでもたらした世界の秩序は、「ローマの平和」(パックス・ロマーナ)と言われ、経済的な発展を世界にもたらしました。皇帝の保護の元で、東は今のイラクの国境まで、西はスペインまでの広い領域において、商取引がなされ経済構造の大きな変動をもたらしていたのです。しかし、そのローマの平和の中身を見てみますと、決してすべての人にとって良いものということは、言えませんでした。確かに、活発な経済活動のおかげで、チャンスを掴んで大いに富める者が出てきた一方で、そのような能力のない人々は土地や財産が奪われ、貧しくなる一方でした。いわゆる格差社会というもので、特に貧しい者たちに、生存することの危機をもたらしていたのが、課せられる税金でした。ここでの聖書の箇所では、皇帝は、最初の住民登録をしたのだとあります。これは、今で言えば税務調査に当たるもので、一人も漏らさずに税金を徴収するため、たとえ MARIA のような妊婦であっても、わざわざ生まれた街に登録をするため、移動させられたためです。今でも色々な税金を負担するのは大変ですし、今度の選挙も消費税が争点になっていますが、当時の税金の額は今の比ではありませんでした。五公五民ですね。およそ、収入の半分に値する額が、税金として徴収されました。ですから税金とは名ばかりで、力の強い皇帝が、力の弱い民衆から恒常的に搾取をできるようにしたのが、当時の税金システムだったということです。

この負担は大変なもので、零細農民は、天候の不順などの理由で収穫物が得られない場合、すぐに没落して畑や家などの財産を、借金の形として取られてしまいます。また、子ども

や妻を売って、借金を払うことも珍しいことではありません。まさに、人のいのちがものとして扱われ、売買されていたのです。ですから、この時の住民登録に反対して大規模な反乱が起こったほどです。もちろんそれらの反乱は、圧倒的な皇帝の軍事力によって、鎮圧されました。逃げ遅れた子どもや女性もろとも町が焼き払われました。

富める者はさらに与えられ、貧しい者はさらに奪われる、そのような時代に、イエスキリストは生まれたのです。しかも、その生まれた場所というのは、当時の世界からすると、最も東の辺境の地、ベツレヘムで生まれたのです。当時の世界の中心は、イタリアのローマでした。ここに大きな宮殿が建てられて、皇帝の息子たちは立派な建物の中で、多くの兵隊たちに守られて安全に生まれることができました。しかし、イエスキリストは、一介の大工の子どもとして、危険な住民登録のための旅の途中で宿屋にも泊まれず、家畜小屋で生まれるしかありませんでした。そこでイエスキリストを待ち受けていたのは、なんとロバや馬の餌を乗せるための、不衛生な飼い葉桶だったのです。つまり、イエスキリストというのは、皇帝のような力があり、富める人の中で安全に生まれたのではなく、貧しく力がなくて、奪われることに抵抗できずに、初めから生存を脅かされている民衆の中に生まれたということ、聖書は語っているのです。

力が強い者が、力の弱い者を虐げるという構造は、何時の時代のどの社会にも見られることです。それは人が人である限り、決して逃れられない根本的な人間存在の問題です。特に、貧しさから来る生存が脅かされるストレスが日常的に掛けられるとき、より弱い方に力のはけ口が向けられるということが起こります。他者への犠牲の転嫁ということが起こるわけです。それは家庭の中で言えば、夫は妻を虐げ、妻は子どもにやるせない思いをぶつけてしまうといったことが、起こってしまうのだということです。そしてそれは何も極度に貧困状態に陥った場合でなくとも、先行きの不安や心の貧しさからも起こることがあります。自らの存在を大切にされない人は、より弱い立場の人に不満や怒りをぶつけてしまうといったことが、私達人間が抱えている逃れられない問題なのだと思います。ですから、この犠牲の他者への転嫁という罪深い構造を転換しない限り、私達人間の真の平和は、決して訪れないわけです。

イエスキリストの誕生は、まさに私達人間の罪深さを根っこから癒やし、人類を死の力から解放する救いの到来となりました。その訪れは、一番小さく弱い立場の幼子として地上に舞い降りたのです。そのもたらすまことの平和は、力と富にあふれた皇帝でなく、権力を持った成人でもなく、幼子イエスに託されました。これは負の連鎖である力強い者から弱い者への罪の構造を断ち切り、力弱い者が強い者を導き、変革して行くという、人類の進む方向の大転換への標章だったのです。私たちは、家畜小屋の飼い葉桶に眠る幼子を先頭に立て、最も小さいいのちを大切にすることによって、世界にまことの平和をもたらすことを、神さまから託されたのです。これがクリスマスの大切な一つの意味であり、また、クリスマスを祝うこの時、まことの平和の意味を、よく考えたいと願います。